資料２

第３回　福知山市避難のあり方検討会資料

大江町蓼原自治会の
水害避難活動について

令和2年2月18日

蓼原自治会長　仁張　衛

大江町蓼原での
「自分たちのむらは、自分たちで守る だれひとり犠牲者を出さない」取り組み

大江町蓼原

人　口　142人

世帯数　60世帯

大江町蓼原を襲った水害

大江町蓼原を襲った水害

	床下浸水	床上浸水	被災割合
平成29年台風21号	7	12	33%
平成30年7月豪雨	31	10	72%

内水が逆流する災害（平成30年7月豪雨）

築堤で守られている安心感→予期せぬ災害
国土強靱化の勘違い→国土と国民強靱化

平成30年7月豪雨後　取り組んだこと

1　地域の住民に災害の危機感を共有してもらう
①地域の地形、歴史、災害史の周知
②地域の社会条件の変化　　③自然条件の変化
④地域の共通理解のもと、自主防災組織体制の強化

2　避難困難者の把握・避難支援
①「同意方式」による要配慮者の把握、避難支援の取り組み
②要配慮者・高齢者　　③子育て世代の取り込み

3　避難車両の対処・水害想定避難訓練
①避難車両の把握、車両避難所の造成　②浸水を想定した訓練

4　住民の避難場所
①要配慮者の避難場所
②地域内の避難場所・地域外の協定避難場所

5　水害時の情報連絡
①地域内の災害時の多様な情報伝達機能の確保
②スマホラインの活用

6　「福知山市自主防災ネットワーク」発足に向けて

1　地域の住民に災害の危機感を共有してもらう

①地域の地形、歴史、災害史の周知

明智光秀統治以前は一色氏（毛利勢力）

地域の営み　由良川の恩恵

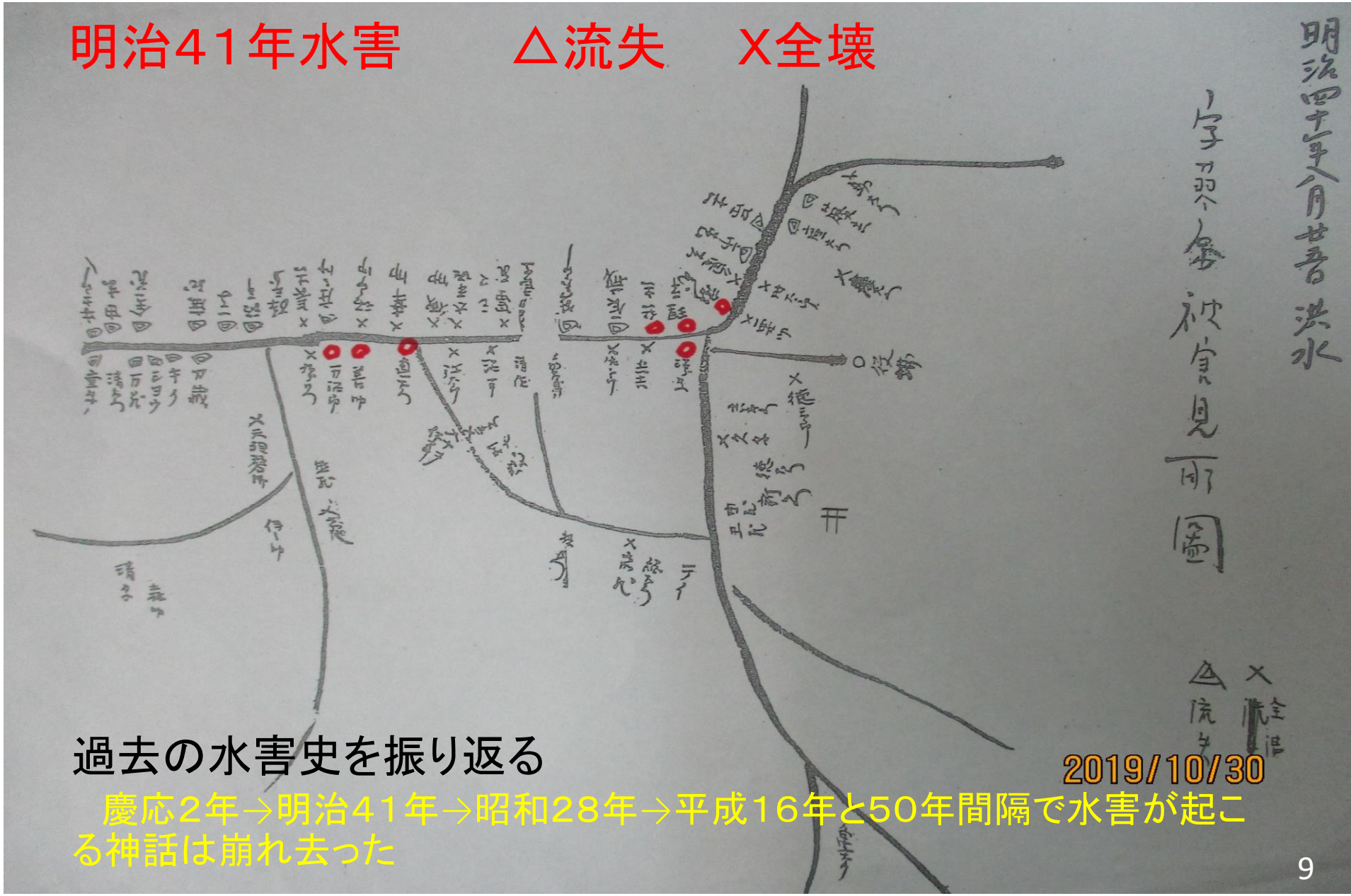
3000石の北前船　宮津の由良湊で200石船に物資積み替え

江戸時代には由良川水運で北前船物資移送　宮津～大阪へ最短航路

宮津(由良湊)～福知山～加古川～瀬戸内海～大阪

江戸時代末期の由良川港町　荷揚げ後、陸路で加古川へ･･･

地域の住民に水害の危機感を周知



過去の水害史を振り返る

慶応2年→明治41年→昭和28年→平成16年と50年間隔で水害が起こる神話は崩れ去った

福知山の過去の災害

昭和28年大水害　死者36名　家屋流失205
丹後大地震　　M6　死者2925人

昭和二十八年九月

台風十三号の爪痕

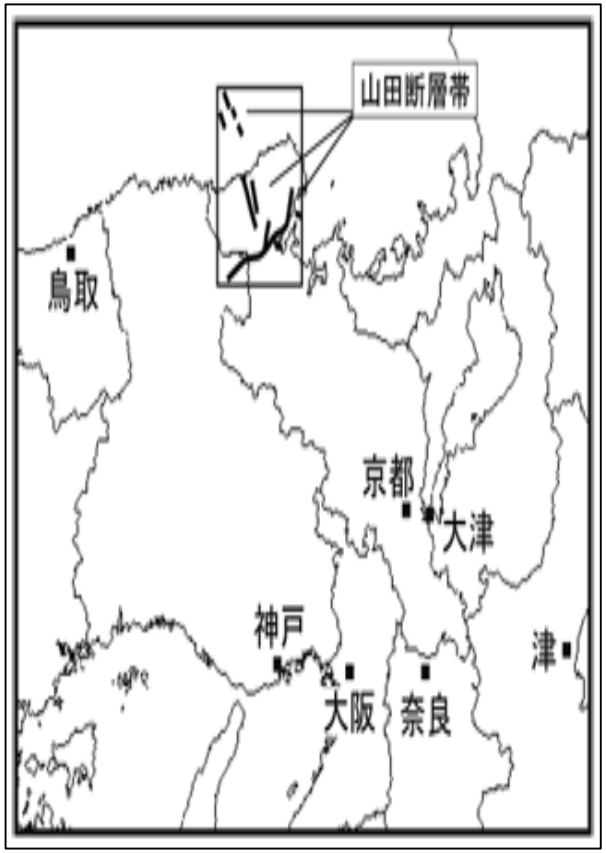
典型的な山地河川である由良川は、洪水氾濫が発生しやすく、一度発生すれば洪水が長期にわたります。過去に大水害が何度も発生し、そのたびに大きな被害を出してきました。特に昭和二十八年に発生した台風十三号による水害は、福知山市、綾部市、舞鶴市、大江町などで大災害を引き起こしました。

市警察署、水族本部、保安隊本内を警消などの手で次々に救助される大屋根に避難した市民。（長町通りにて）　写真提供者：長井　勝生

大雨続に避難して不安の一夜を明かす。逃げ遅れた市民。　写真提供者：地蔵　勝氏

アオイ通りの濁水に、スズランがわずかに水面上に首を出すまでに達した。写真提供者：信見　勝氏

山麓から山麓まで見渡す限り濁水で満たされた由良川下流域。　写真提供者：信見　勝氏

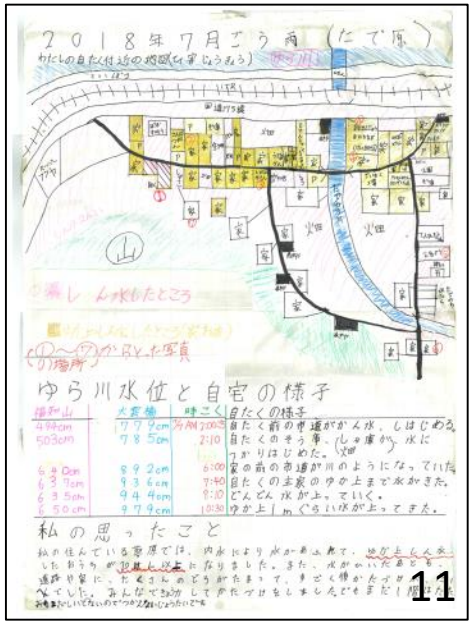


地域で伝える過去の水害の記録

福知山市大江支所P　行政が設置する水害水位標識もあるが・・・

壁に刻んだ水害水位標識

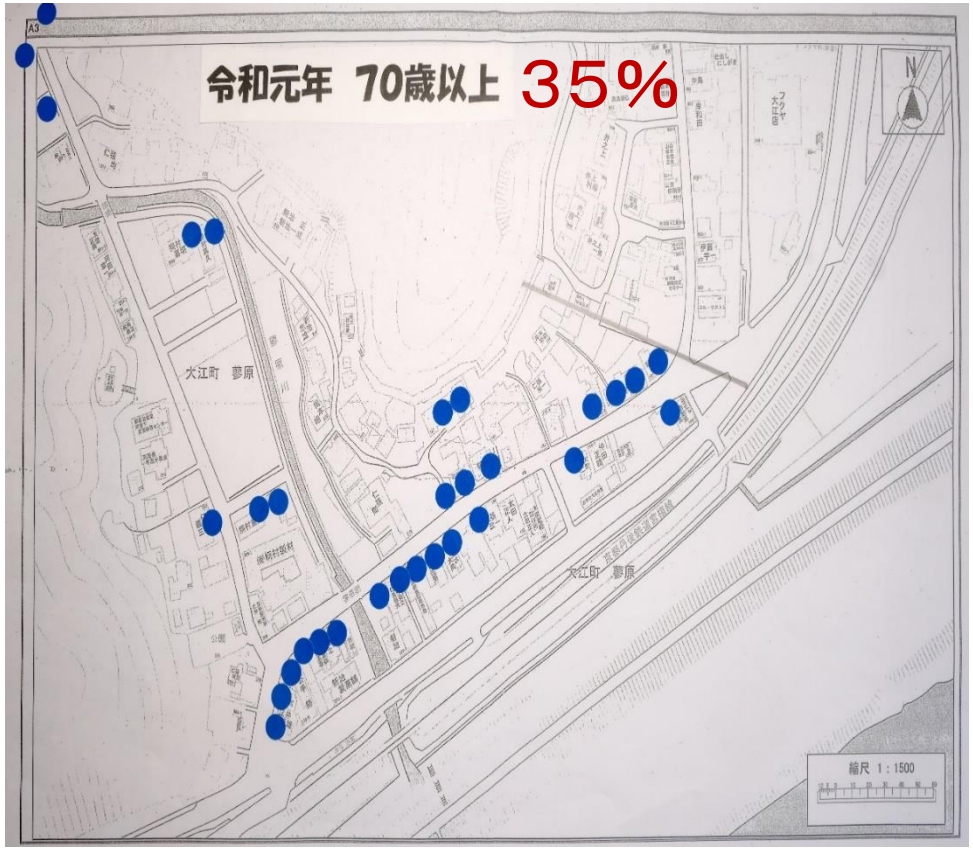
夏休みの自由研究

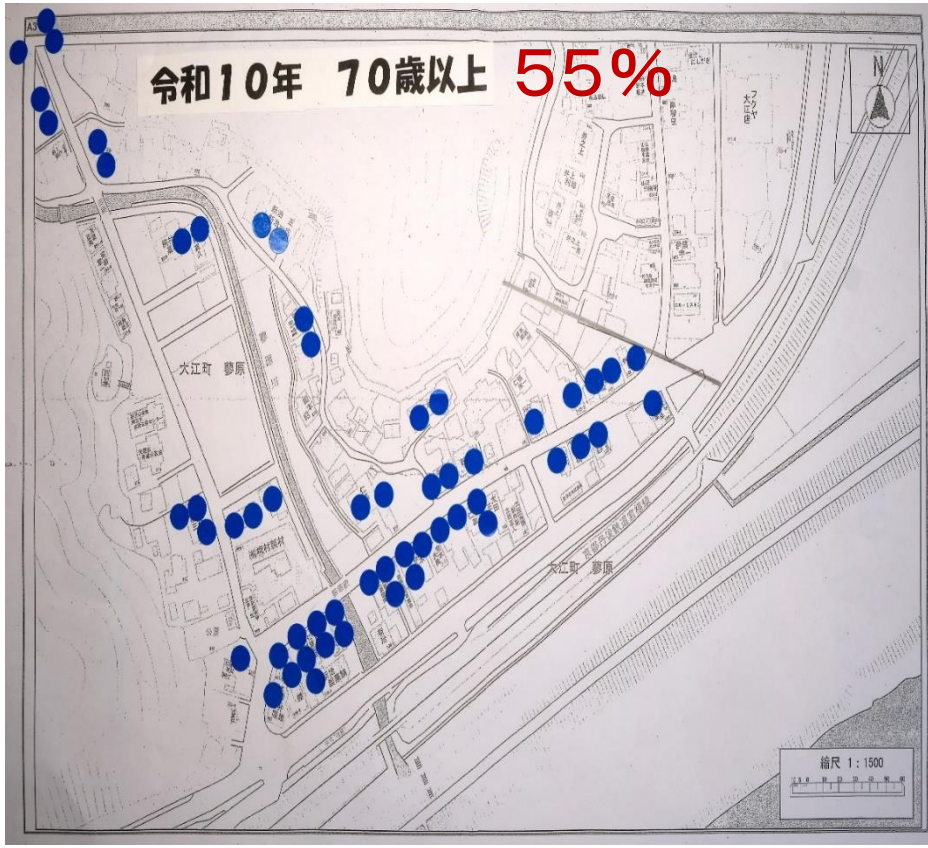


1　地域の住民に災害の危機感を共有してもらう

②地域の社会条件の変化

10年後の地域の年齢構成を把握し、力のあるうちに自主防災の基盤を造る





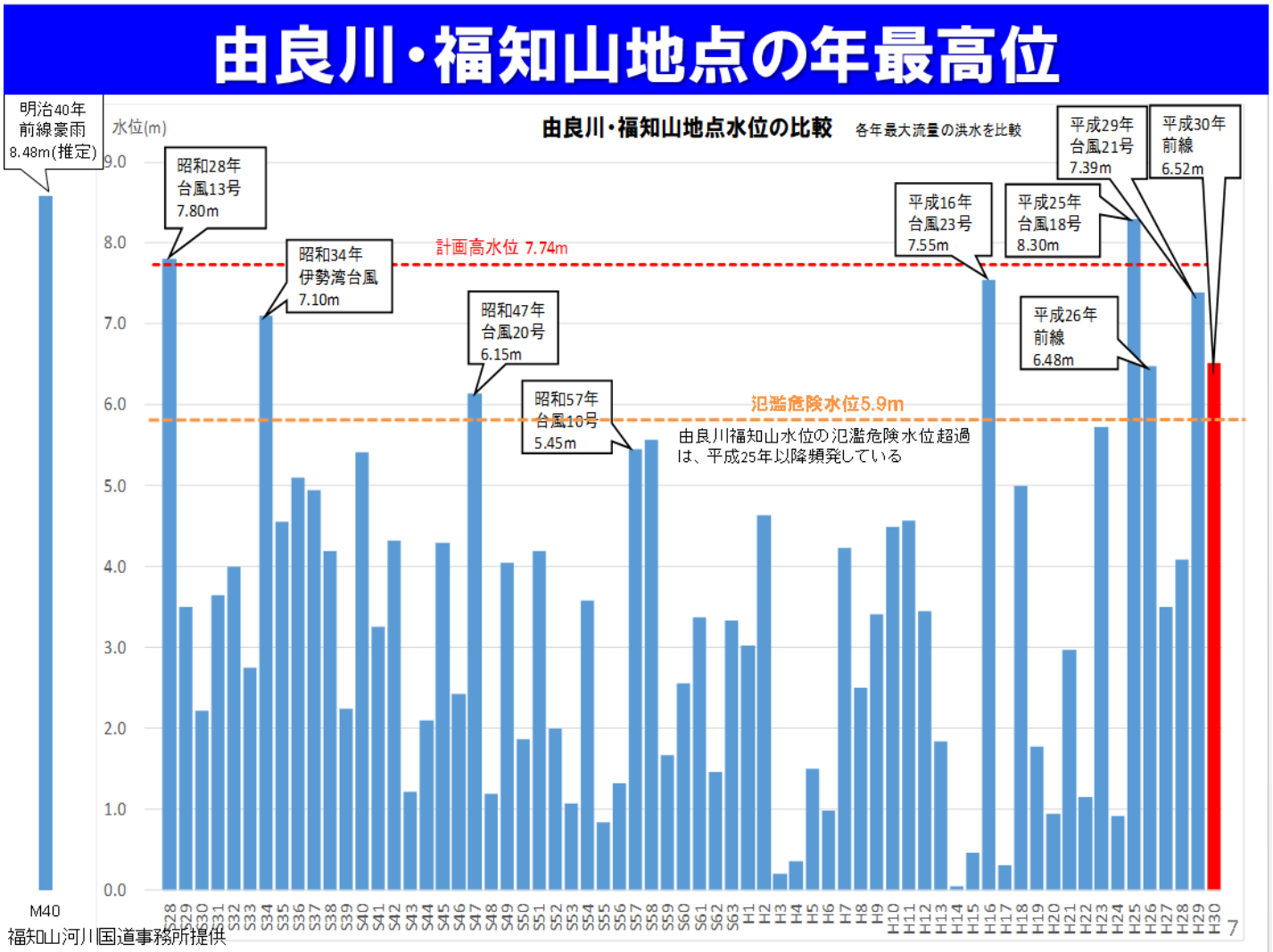
地域の70歳以上がいる世帯の推移見込み（高齢化率35%⇒55%）

1　地域の住民に災害の危機感を共有してもらう

③自然条件の変化

地球温暖化の影響により･･･　日本近海の海水温が26度以上→台風の多数発生
バックビルディング現象による集中豪雨の多発

住民と状況を共有！



福知山河川国道事務所提供

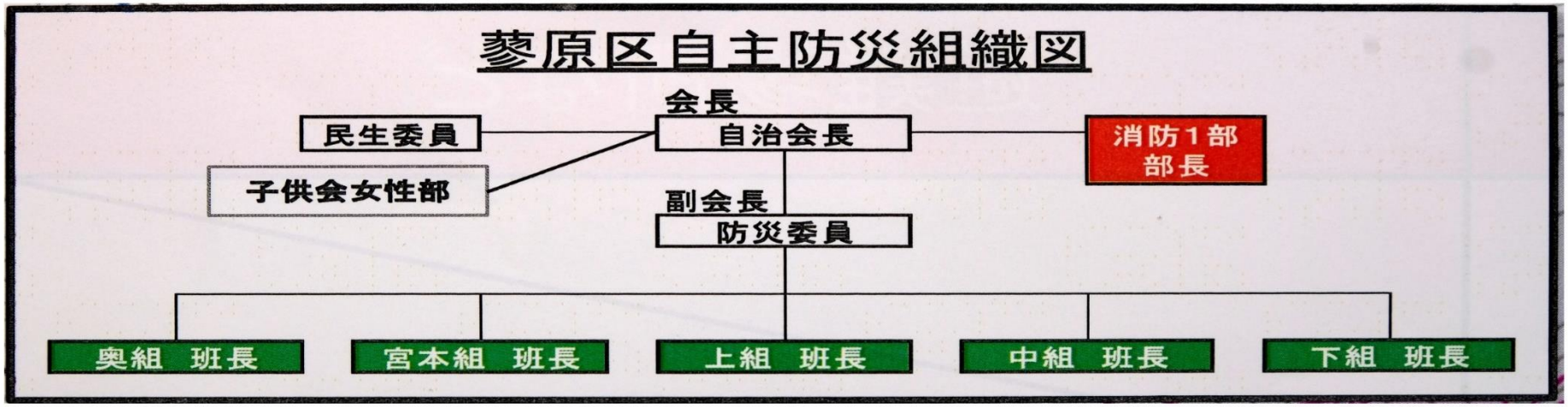
1　地域の住民に災害の危機感を共有してもらう

④地域の共通理解のもと、自主防災組織体制の強化

・消防団OBを選出し任期3年以上

・女性役員を選出し発言しやすい環境をつくる

・一年交代の自治会長を・・・見直し



誰一人犠牲者をださない取り組み・・・

2　避難困難者の把握・避難支援

①「同意方式」による要配慮者の把握、避難支援の取り組み

蓼原では要配慮者宅一軒一軒を訪問し、名簿作成の同意を得る。大きな自治会では労力と時間がかかる

○各戸に避難支援が必要か聞き取り調査

○避難を希望する人への個別面談⇒避難の方法や場所を確認

○避難支援が必要な家を地図に落とし込み、地域で共有　※本人の同意あり

○要配慮者の情報を記載したカードを避難の際に胸にかけ、避難所に引き継ぎ

※災害時要配慮者以外の避難希望者の掘り起こし、高齢者を抱えた家庭、妊婦、通院患者など

水害時蓼原区避難者情報

氏名	大江　一郎
生年月日	昭和20年　5月12日（76歳）
世帯主	大江　一郎
住所	福知山市大江町蓼原＊＊＊
電話番号	自宅＊＊＊＊　携帯＊＊＊＊＊＊＊
避難方法	自家用車　　搬送
支援内容	車椅子　ベット
病院	かかりつけの病院　　＊＊＊病院
緊急連絡先	氏名　大江二郎　続柄　長男 住所　＊＊＊＊＊＊＊＊＊ 電話番号
特記事項	

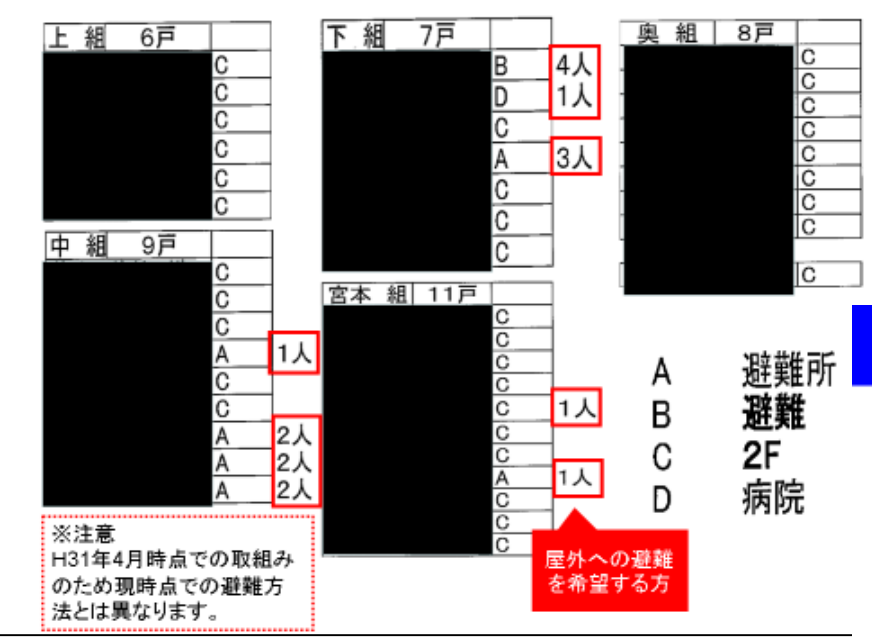
＊記載された情報は、水害発生時に地域の支援により生命の安全をはかるものであり、それ以外の用途に使用したり、他に情報を流したりすることを禁止します。
福知山市蓼原自治会長

2　避難困難者の把握・避難支援

②要配慮者・高齢者

自主防災組織で避難困難者情報を共有する

だれひとり、犠牲者を出さない取組み



←各組の避難困難者図の作成
組ごとの要配慮者の分布を把握、
避難先の意向を聞き取る

だれひとり、犠牲者を出さない取組み

水害避難者名簿　（福知山市大江町夢原・小谷自治会）　2019・4・8現在

組名	氏名	性別	生年月日	住所	世帯主	避難方法	備考	特記事項
下組		男	1948/4/25(70歳)			自家用車		
下組		女	1957/12/4(61歳)			自家用車		
下組		男	1988/7/2(30歳)			自家用車		
中組		男	1944/6/30(74歳)			自家用車		
中組		女	1949/10/26(69歳)			自家用車		
中組		男	1928/8/20(90歳)			送		
中組		女	1930/3/18(89歳)			送		
中組		男	1932/2/24(87歳)			自家用車		
中組		女	1932/10/28(86歳)			自家用車		
中組		女	1932/9/9(86歳)			送	車イス・ベッド	有
中組		男	1941/10/30(77歳)			自家用車		
中組		女	1946/7/1(72歳)			自家用車		
宮本組		男	1928/2/12(93歳)			送	車イス・ベッド	有
宮本組		女	1938/12/26(80歳)			送		
下組		男	1969/2/6(50歳)			自家用車	透析・週3	

避難に支援が必要となる方

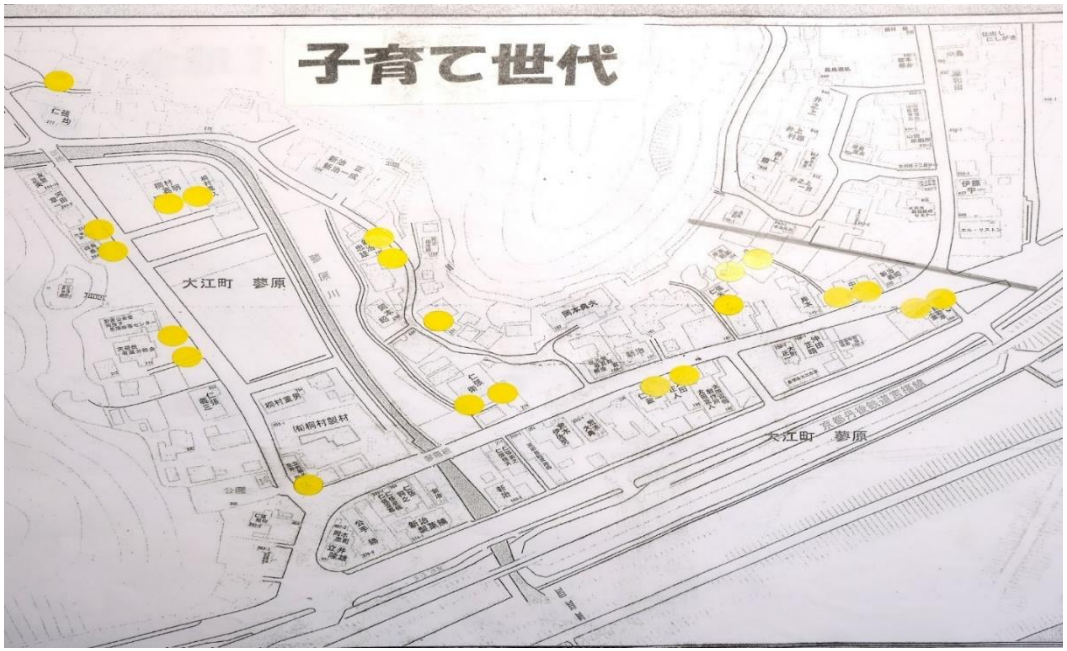
各組の避難困難者名簿の作成→

避難支援者は本部で割当て、指示

2　避難困難者の把握・避難支援

③子育て世代の取り込み

自主防災組織が子育て世代の情報を共有
共働き家庭の子供の避難のあり方



・自主防災のラインングループへの母親の参画（１２名⇒拡散）
・遠くに住む出身者もグループに加入
　　⇒蓼原在住の一人暮らしのおばあさんにもつなげる

蓼原版逃げなきゃコール

3　避難車両の対処・水害想定避難訓練

①避難車両の把握、車両避難所の造成

〇地域アンケートで避難自家用車把握

⇒　地域80台中57台が車両避難希望

地域内高所に共助で車両避難所造成

水害時の車避難所設置

大江町 蓼原自治会

住民たちが空き地を整備

50台が安全に駐車できる

毎年のように洪水被害を受けている福知山市大江町の蓼原自治会（仁張衛自治会長）は、水害時に住民たちの自家用車を水没から防ぐため、地区内に車両専用の避難所（駐車場）を造った。このほど発生した台風19号による水害では、避難途中に車の中で被災した人もいることから、同自治会では「一人の犠牲者も出さない」の合言葉のもと、住民たちが力を合わせ駐車場の整備に励んだ。

車両の避難所の整備に励む住民たち

由良川の越水で、たびたび洪水に苦しめられてきた蓼原地区は、昨年の7月豪雨では内水被害が発生。多くの家屋が床上浸水したほか、車両2台が水没した。

自治会では区民に車両についてのアンケートを取り、住民たちが約80台の車を所有していて、このうち約50台の車の持ち主が車両専用の避難所の設置を希望していることが分かった。

洪水時に住民たちは、水がつかない山間部へ向かう市道沿いなどに車を駐車していたが、安全にとめておくことができる専用の駐車場を造る計画を立て、自分たちで整備に取り掛かった。

場所は、7月豪雨の際も浸水しなかった空き地で、住民から提供を受けた。広さは約3000平方㍍で、車約50台が駐車できる。

8月下旬から雑草を刈り、土を入れるなどの整備を始め、10月20日には住民約30人が参加し、砂利を入れ、ならして仕上げた。

自治会の自主防災会のリーダー、仁張均さん（68）は「災害発生時、車両避難中に犠牲になった方がおられます。蓼原では、まず避難希望者を区外の避難所に送ることを優先し、そのあと車を安全な地元の専用避難所に移すことで、区民の生命と財産を守っていきたい」と話している。

3　避難車両の対処・水害想定避難訓練

②浸水を想定した訓練

令和元年６月２日（日）、水害防災訓練を実施

令和元年９月１日（日）福知山市地域防災訓練

4　住民の避難場所

①要配慮者の避難場所

広域避難所 「金屋ふれあいセンター」

公設福祉避難スペース

4　住民の避難場所

②地域内の避難場所・地域外の協定避難場所

取るべき行動	スイッチ	避難場所など
情報収集	台風の接近等、大雨が予測され、京都府北部で24時間降雨予測が200mmを超える場合	
防災本部設置	大雨・洪水・暴風警報が発表され、なお、事態の悪化が見込まれる場合、本部役員の協議により決定	蓼原公会堂
要配慮者避難開始	避難準備・高齢者等避難開始の発令を基本とし、明るいうちには避難を開始	金屋ふれあいセンター
荷上げ、車両高台移動	・河川水位・降雨予測をもとに各自で判断。参考として迫田自転車商会の移動開始を目安にする。 ・由良川水位が福知山水位観測所3．0m、または天津上観測所5．0mを超える前に完了	車両は地域内の避難場所へ
その他の方避難開始	・由良川水位が福知山水位観測所4．0m、または天津上観測所6．0mを超えた場合 ・樋門内水位で地域内の最低地高の9．87mを超えた場合 ・土砂災害警戒情報が発表された場合	地域内の避難場所及び自宅の2F以上

市とマイマップ作成の取り組み。避難のタイミング、避難場所を検討・決定

5　水害時の情報連絡

①地域内の災害時の多様な情報伝達機能の確保

住民への情報伝達

各戸への放送

各戸に配備されたスピーカ

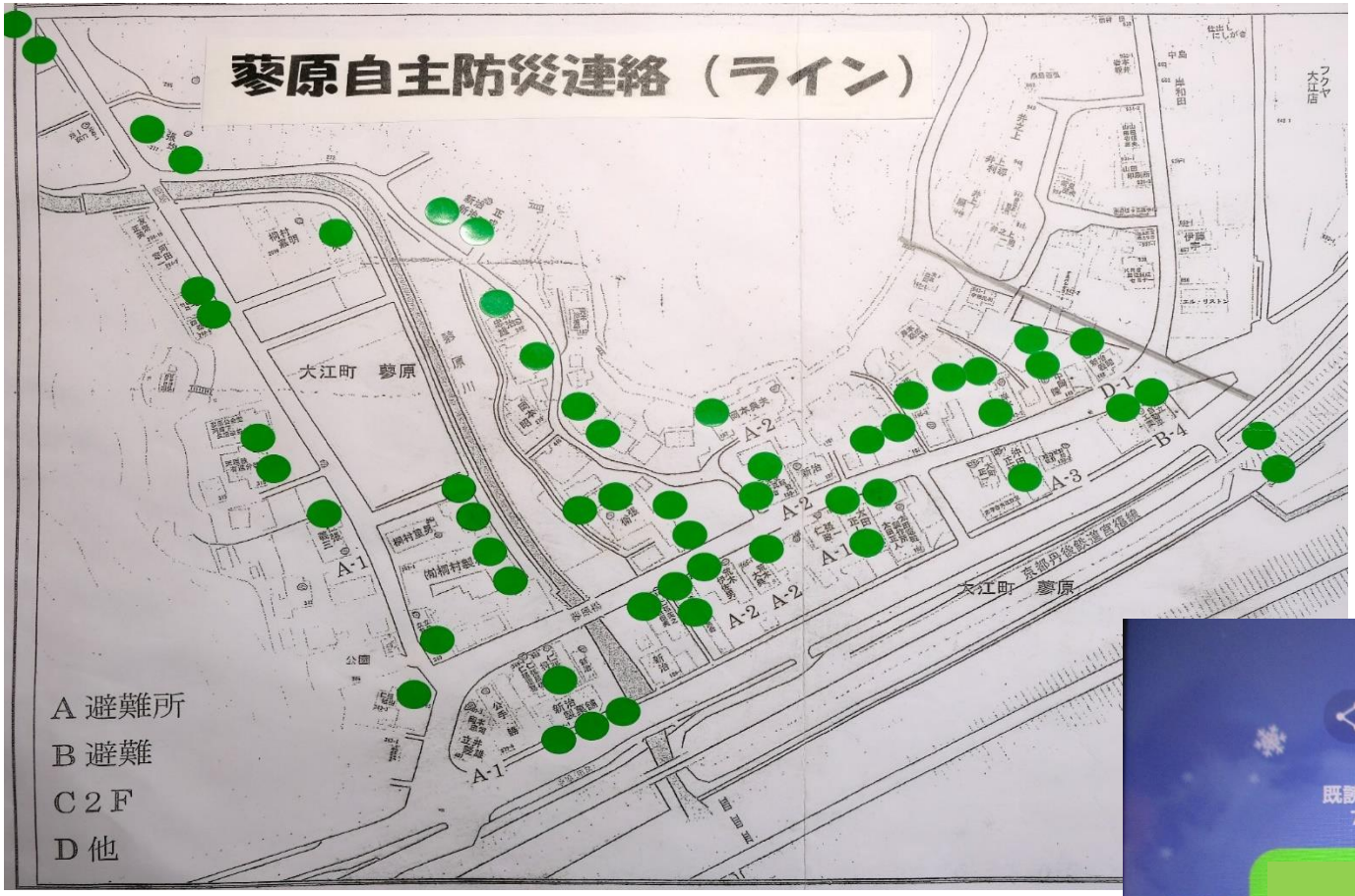
LINEで伝達（62名登録）

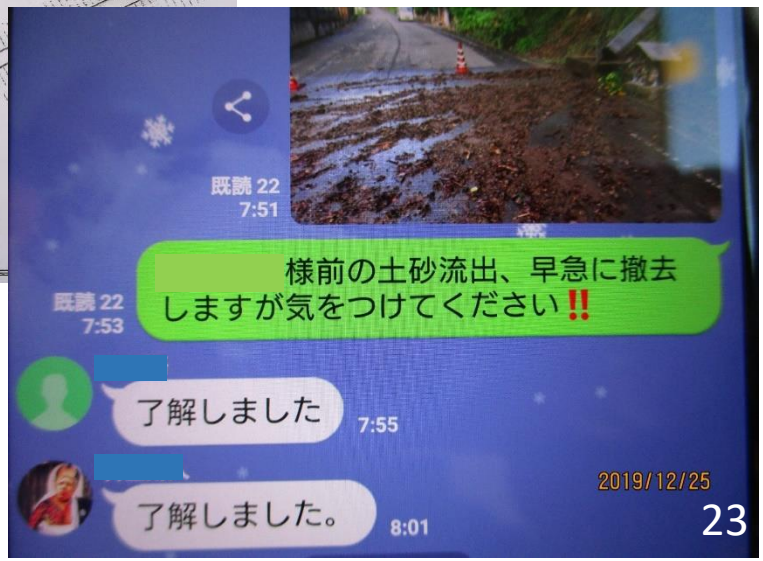
車両による伝達

車載用拡声器を設置し、広報を実施！

5　水害時の情報連絡

②スマホラインの活用





蓼原自主防災連絡ライングループを作成
子育て世代の母親たちも加入
子供たちの避難行動につなげる

６「福知山市自主防災ネットワーク」発足に向けて

「福知山自主防災ネットワーク」発足に向けて
災害困難者を守る実践報告会が市民団体「シェア福知山会議」の呼びかけで1月25日開催（市民50人出席）
今後、賛同者を募り意見交換、研修を市民主体で行う

現在の自主防災組織の問題点
福知山市の自主防災組織
　⇒　271／327自治会　82．9%で結成
防災の取り組みは地域差・温度差
　⇒　共通の問題を抱える市民が結集
自治会長任期1年～2年
　⇒　自主防災組織の格上げ

「福知山市自主防災ネットワーク」の活動
賛同者により立ち上げ、市民主体で地域の防災活動を高める
①テーマを決め意見交換　②自主防災研修　防災士・社協・「わかばプラス」（子育てサークル）が参画
③災害想定避難訓練

「自らの命は自らで守る」
「自分たちの地域は自分たちで守る」
ー災害時だれひとり犠牲者を出さない取り組みー
ご清聴ありがとうございました！